

清恵会医療専門学院 第2看護学科

自己点検・自己評価による評価及び学校関係者評価

	点検・評価項目	点検・評価項目総括		課題と解決方法・ 特記事項	学校関係者	
		評価	現状・具体的な取り組み等		評価	特記事項
1 教育理念・目的・ 育人材像	1-1 理念・目的・育人材像は、定められているか	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	入学案内、ホームページ上で、理念と特長についてを明確にしている。入学後は、早期に教育カリキュラムガイダンスを用いて、説明を行っている。各学年では、機会毎に理念から関連付けて、学生に意識を持たせている。	入学案内、ホームページ上で明確に打ち出しているが、学生や教員全員が共通して、どの科目や行事がそれに繋がっているのかを理解できているかは、確認できていない。理解が深まり、学校全体で目的・目標に向かえるように意識を高めていく必要がある。	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	理念・目的・育人材像は学則に定められ、また専任教員に理解されている。また、専任教員はその理解のもとで教育活動を行っている。課題としては、学生への早期理解の徹底が挙げられる。
	1-2 育人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	教育理念・目的・目標から各学年到達目標を設定している。入学案内にも、有資格者としてさらに専門職業人としての成長が図れるように知識・技術・感性を高め、社会の動向に対応できる応用力が求められることを掲げている。特に保健・医療・福祉チームの中心となり得る看護師としての役割を意識させている。	教育理念にあるように「社会の変化に対応できる看護専門職を育成する」ために、自ら学び、主体的に行動できる学生であってほしい。また、卒業時には、科学的根拠に基づき、対象に応じた看護が実践できる看護師になれるよう育成したいと考えているが、学生に具体的にどう行動するのかを伝えていく必要がある。	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	100%の就職率から育人材像は業界の人材ニーズに適していることが証明されている。今後も母体病院や実習施設等から得る情報を精査し、変化に柔軟に対応することを期待する。
	1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	教育理念にあるように、感性と教養を高め、幅広い人間関係と科学的思考ができるように「人間関係論」「文学」「統計学」等を設定している。また、自己学習力や発信力を高めるために、グループワークでの発表を多く取り入れている。実習前には、社会人、医療人としてのマナーを身につけ、実習に臨めるようにマナー教育、看護倫理、医療安全の学習を行っている。学外活動は少ないが、感性を高める目的で文楽鑑賞を取り入れている。	第1・第2・准看護学科、理学、放射の学科があるため、その特徴を生かした科目設定や、演習、学習を取り入れ、学科間の連携を図る。また、地域との交流ができる行事も取り入れ、法人や学校を知っていただきたい。	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	病院附属の特長を生かし、少人数制教育で培われた伝統と経験を活かしながら、他科と情報を共有し、アクティブ・ラーニングにも取り組んでいる。
	1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	現在、通信制教育制度の変更により、2年課程の入学希望者が減少している。その中で、選ばれる学校になるために、准看護学科併設の特徴を生かして、5年一貫教育を打ち出している。今後は、男子学生の募集も考えている。また、地域との繋がりを生かした学校行事や理学・放射科併設の強みを生かした多職種連携教育を考えている。	現行の教育内容の評価ができていないため、カリキュラムの見直しが遅れている。カリキュラム改正に向けて、早期の点検・見直し、検討が必要である。	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	校舎・設備等の老朽化から将来構想の策定が急務である。第二学院も含めた看護学院の今後のあり方を、法人全体で早急に検討し方向性を決定する必要がある。
2 学校運営	2-1 理念に沿った運営方針を定めているか	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	教育理念に沿った教育方針から学校の運営方針を立てている。毎年年度初めに、科長、主任会議に諮られ、その後各科の教員に方針が伝達される。	年間の運営方針について、各教員が明確に覚えて行動できているか、年度末まで、振り返る機会がないのが現状である。年4回の教務会では、運営方針の確認も必要ではないか。	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	2019年度～2023年度中長期経営計画にて策定した“ありたい姿”経営計画マスタープランと事業戦略を理解し、目標達成に向けた取り組みを行っている。

2 学校運営	2-2 理念等を達成するための事業方針を定めているか	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	学校運営方針と教育方針をもとに、各学年担任が年間の学年目標をたてている。前期・後期で目標に沿って進めることができたかの評価を行っている。	各学年のクラス目標に対し、授業、実習、教科外活動を進めて行く中で、目標の達成度を確認していけるとよいが、年度末に目標に到達できているかの確認方法が明確ではない(担任のレポート提出)。評価と分析が行えるように方法を検討・統一していく。	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	
	2-3 学校運営のための組織を整備しているか	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	学校運営にあたり、組織図のもと、教務会、科長会、主任会、その他各種委員会を設置し、科長・主任が中心となり委員会を開催している。学校運営のために、各委員会での役割を遂行すべく、月1回の委員会の中で協議を行っている。	多少の日程変更はあるが、会議と委員会活動は毎月進行していている。会議の中では話し合えることが限られているため、その年度内で何を行っていくかの内容の優先度が難しい。社会の動向や看護教育で何を求められているかを情報収集する必要がある。	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	学院運営委員会を設け、学院の管理・運営の適正を図るため、必要な事項を月1回実施する会議にて審議決定している。
	2-4 教員の組織体制を整備しているか	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	学校の組織として、学院長、事務長、教務部長、教務副部長、教務科長、主任、専任教員で構成されている。各学年は、担任制をとり、それを補佐する教員を置いている。各学年の運営には、科長、主任が指導・管理にあたっている。実習に関する事項は、主任が役割を担っている。	学科によっては、専任教員の人数により、担任を補佐する教員数の不足がある。授業や実習も学科間で他学科の内容を負担するなど、協力が必要である。その際には他学科の特性の把握や学生の情報を知るための時間が必要となる。	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	教員の業務分掌及びサービスに関する規程を定め、組織体制を整備している。
	2-5 人事・給料に関する規程等は策定されているか	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	人事については設置主体法人の規程に基づき、法人理事会で決定される。給料規定も策定されている。	学校内の人事に関しては、教員養成講習受講と未受講の教員の配置のバランスを考えているが、未受講の教員や新任教員が多いことで、学科によって配置が難しいことがある。	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	人事・給料に関しては2018年度より設置主体法人の規程する役割等級制度に基づき、適正に運営されている。
	3 教育活動	3-1 教育理念等に沿った教育課程の編成、実施方針を定めているか	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	教育カリキュラムガイダンスには、「カリキュラム構造図」と、「各分野の考え方」、「教育目標との関連科目」、「科目構成の概要」、「科目内訳」、「教科外活動」の内容を明記している。	教育課程の編成はできているが、実施方針は明確になっていない。また、各教員の裁量に任されていることが多い。	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要
3-2 修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか		4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	教育カリキュラムガイダンスには、「学年別到達目標」として、教育目標に沿って各学年次の到達目標を明記している。	各学年でクラス目標を設定している。授業、実習、教科外活動を進めて行く中で、目標の達成度を確認していけるとよいが、年度末に目標に到達できているかの確認方法が明確ではない。そのため、評価と分析が行えていない。	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしており、専任教員と外部講師、また学生にも周知が図られている。

3 教育活動	3-3 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	教育目的・目標に沿って、「基礎分野」「専門基礎分野」「専門分野Ⅰ」「専門分野Ⅱ」「統合分野」「臨地実習」で構成している。各分野の考え方として、どのような学生を育成したいかを挙げ、科目設定を行っている。各授業科目には、シラバスがあり、始講時に学生に配布している。	次回のカリキュラム改正に向けて、早急に教育内容の見直しが必要である。教育理念・目的・目標に沿った科目設定、内容となっているか、重複はないか、を検討していく必要がある。	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	教育目的・目標に沿った教育課程が編成されており、専任教員と外部講師、また学生にも周知が図られている。
	3-4 教育課程について、外部の意見を反映しているか	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	初めて担当していただく講師には、講義準備時にシラバスを渡し、内容を確認していただいている。有資格者である学生に対しどの程度教授したらよいかという相談もあるため、前年度の学生の意見や反応を参考に伝え、講師と相談をしている。講義開始後にも学生の意見を聞いて、学生の希望している内容を講義していただくこともある。	実習に関しては、毎年調整会議があるため、内容の相談・確認を行えているが、講義については、内容の確認が講師からあった場合のみ調整を取る場合が多い。本来なら毎年講義内容の調整を行い、学生の特性に応じた講義を検討していただくのが望ましい。	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	実習先や外部講師、現場で活躍する卒業生からの意見を積極的に取り入れ、教育課程に反映させている。
	3-5 キャリア教育を実施しているか	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	専門職業人としての高い知識・技術・感性を身につけ、医療チームの中心となる看護師の育成を目指している。教育内容は准看護師教育からさらに高度な内容を心がけ、各学年目標においても、教育内容や教科外活動と関連して学びが深まるように設定している。	准看護学科での学びが土台としてあるため、さらに応用力や科学的根拠に基づいた看護に繋がられるよう、教育内容を考えている。しかし、科目によっては准看護学科で学んだ内容と重複しているという学生の意見があるため、講師と相談が必要である。	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	職業人教育は入学後直ぐに始めており、様々な行事等に学生全員が主体的に取り組むことによって自律性と協調性を高める努力が行われている。
	3-6 資格・要件を備えた教員を確保しているか	4 優れている 3 ほぼ適切 ② やや不適切 1 改善が必要	看護師養成所設置基準に規定された専任教員の数が確保できていない。すべての専任教員が看護教員養成講習会を受講しているわけではなく、教員の経験年数が多様である。	専任教員の確保と教員養成講習会の受講も必要であるが、新人教員が離職せずに定着していける職場環境が必要である。	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	資格・要件を備えた教員を確保する努力を継続して行っている。
	3-7 教員の資質向上への取り組みを行っているか	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	専任教員には、各自の専門領域の研修に年1回は参加するように、学校全体で取り組んでいる。また、教員も個人的に自己研鑽を年間目標に挙げ、達成に向けて努力をしている。学内でも教員全員参加による年4回の教務会の中で、伝達講習や勉強会を行っている。	専任教員全員が、自分の専門領域の研修に参加することはできていない。また、研修に参加した内容は、報告書として回覧されるが、全員が内容を把握し、理解できたとは言い切れない。	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	協会等の主催する研修会や学会に参加しており、教育の資質向上への取り組みを行っている。
	3-8 授業評価を実施しているか	4 優れている 3 ほぼ適切 ② やや不適切 1 改善が必要	外部講師、学内教員ともに、2018年度は授業評価が全科目行えていなかった。令和元年度からは、全科目の授業評価を行うように学校全体で取り組みを始めることになっている。	授業評価、実習評価共に実施を進めて行き、外部講師に評価の結果を報告することができるようにしていきたい。	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	授業評価を実施している。リアクションペーパーを活用する等FD活動に教員全員で取り組んでいきたい。

3 教育活動	3-9 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	④ 優れている 3 ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	学則・成績査定内規により、「単位認定」「学習評価」「追・再試験」「臨地実習評価」等の科目履修許可及び卒業に関する必要事項を定めている。また、留保された科目についても「認定試験」として規定を定めて運用している。	各科目の出席状況は、学生と共に把握しており、時間数不足で単位に影響が出ないように管理している。年度末には、進級判定・卒業判定として成績査定内規に沿って成績を出している。時間数の確認は自己管理と言っているが、学生の意識としては低く、未だに教員からの警告が必要である。	④ 優れている 3 ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用している。
	3-10 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか	④ 優れている 3 ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	各学年で行った行事、学習、実習については、学内で発表や報告会を行っている。クラス内だけではなく、他学年の学生も報告会に参加し、双方に学びや刺激となり、共有ができています。	学習や実習の成果は、学内で学生、教員のみで発表を行っている。実習指導者にも参加していただくと、学生の学びや振り返りを知っていただける機会となる。また学内のみでなく、外部に向けて学びを発表し、いけるように看護研究について、教員も意識を高めていく。	④ 優れている 3 ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	各種の発表における成果を把握している。
	3-11 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているのか	④ 優れている 3 ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	看護師免許を取得するにあたり、教育課程の中の各分野で、何を学習するのかを入学時から学生に説明している。教科外活動や各実習においても、目的・目標があり、その都度何を学んで、最終的に各自が目標とする看護師像に近づけるのかを意識させている。	入学時の教育課程の説明時に、専門職業人として、准看護師教育の基盤の上に高い知識・技術・感性を身につけることの必要性を伝えている。学生は、各科目の必要性や実習での学びを繋げて考えることができているのか、学期及び学年ごとに意識の確認が必要である。	④ 優れている 3 ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	目標とする看護師国家資格の取得は、教育課程上で明確に位置づけられている。
	3-12 資格・免許取得の指導体制はあるか	④ 優れている 3 ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	国家試験対策は1年次から行い、本格的に模擬試験に臨むのは2年次からである。模擬試験の結果を振り返り学生の弱点、得意分野を把握し、学習課題を取り入れている。学習成果の上がない学生には個別面談を行い、学習支援を行っている。	国家試験対策は1年次から始めているが、学生の意識として低いのが現状である。本格的に集中した対策に入るのが、3年次の実習終了後の12月であり、学生の不安も大きくなっていく。学習面だけでなく、精神的サポートも教員間で統一していく必要がある。既卒者に対しても連絡を取り、合格できるように可能なサポートを行っている。	④ 優れている 3 ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	看護師国家資格の取得のための指導体制は整っている。
4 学修成果	4-1 就職率の向上は図られているか	4 優れている 3 ほぼ適切 ② やや不適切 1 改善が必要	准看護師免許を有している学生であるため、各施設で業務を行いながら、その施設での奨学金制度を受けている。卒業後は奨学金貸与施設への就職が多いが、実際に卒業時に就職先が決まっていなかった学生も数名いた。年齢が高く、就職が困難な状況はある。	法人から打ち出された、今年度の学生就職の目標は第2看護学科で5名となっている。教務部長より、就職に関する面談が前期に行われるので、継続して実施し、就職困難者を出さないようにする。就職先が未定の学生には法人への就職を検討するよう働きかけを行う。	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	就職率の向上は図られている。学院創立以来、就職率100%を維持しているが、今後も継続を期待する。
	4-2 資格取得率の向上が図られているか	4 優れている 3 ほぼ適切 ② やや不適切 1 改善が必要	2018年度の国家試験合格率は93%であった。不合格となった卒業生には、定期的に連絡をし、学習状況の確認を行っている。また、国家試験対策についての情報を伝え、模擬試験問題を提供することで、次年度の合格が確実にできるように支援している。	2017年度の国家試験合格率は100%であった。2018年度の合格率が低下したため、原因と対策、課題を明確に打ち出している。合格率を上げて100%に近い状態に回復させるために、各学年での国家試験対策を強化していく。	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	対策授業や補講、模擬試験の実施等、看護師国家資格の取得率の向上を図るために努力は行っている。国家試験対策委員と連携し、全教員での取り組みを継続していただきたい。

5 学生支援	5-1 学生相談に関する支援を整備しているか	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	各学年とも新年度の5月に個別面談を行っている。担任より学生の状況報告が科長にあり、学科会議でも、報告があるため学科教員全体で学生の情報は共有できている。学生には入学時に、法人の担当者にカウンセリングの相談が行えることを伝えている。	法人でのカウンセリングを希望する場合は、教員にも報告する必要はないとしている。そのため、相談の実態は把握できていないが、学内で気になる様子の学生がいるときは、教員から声をかけ、相談しやすい環境を作ることが必要である。	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	学生相談に関する支援は整備されている。労力が必要とされる様々な相談への対応を、相談しやすい環境を維持しながら、今後も継続していただきたい。
	5-2 学生の経済的側面に対する支援を整備しているか	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	法人修学資金制度を積極的に周知し、また学費の猶予・分納相談にも対応し支援を行っている。日本学生支援機構の申込み事務手続きの支援も行っている。	特になし	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	学生の経済的側面に対する支援は整備されている。
	5-3 保護者との連携体制を構築しているか	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	学科の行事としては少なく、学生が有資格者であり、自立して生活している者が多いため、保護者との連絡、連携は少ない。成績に関することや、進級に関する必要がある場合は、受験時の連帯保証人にあたる人物に連絡をとるように統一している。	学科として保護者会を行う予定はないが、保護者からの苦情が多くなっている現状では、今後検討が必要である。	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	保護者との連携体制は構築されている。今後は保護者への成績開示の実現に取り組んでいただきたい。
6 教育環境	6-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	教室の環境は40人対応の広さである。パソコン等の機器類は各クラスに設置しており、視聴覚教材は整っている。看護教育に必要な設備・用具は最低限揃っているが、物品の古さや使用頻度の少ないものが多くある。建物自体も築年数が経ち、老朽化している。	2017年の指導調査時に、設備・備品点検を行った。指定規則上必要な物品は揃っているが、老朽化している物が多く、型も古くなっているため、定期的に点検を行い必要な物は購入し直すようにする。	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	教育上の必要性に対応した施設や設備、教育用具等整備はしているが、老朽化等により十分ではない。
	6-2 防災に対する体制は整備されているか	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	大地震発生時の基本方針は定められたが防災訓練を実施していない。また、帰宅困難時の備蓄や災害時安否確認のシステム構築ができていない。	築40年以上の校舎であることから、早急な耐震補強や備蓄、安否確認システムの構築が必要である。	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	防災に対する基本体制は整備されている。が、校舎・設備等の老朽化から将来構想の策定が急務である。看護学院の今後のあり方を、法人全体で早急に検討し方向性を決定する必要がある。
	7-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供等の取り組みが行われているか	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	大阪府看護協会主催の研修会等に積極的に参加し、他の准看学校と情報提供等を行っている。	特になし	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	准看護学校等の訪問を行っており、接続する教育機関に対する情報提供等の取り組みは行われている。

7 学生 の 受 入 募 集	7-2 学生募集活動を適切かつ効果的に取り組んでいるか	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	准看護学校訪問に加え、業者主催の進学相談会や大阪府看護協会主催の進学相談会に積極的に参加し、またオープンキャンパスと学校見学会も積極的に実施している。	特になし	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	准看護学校生徒の高年齢化と、通信制養成校の躍進により、受験生の減少が著しく、定員確保が難しい状況である。この厳しい状況を将来どの様にしていくのか結論をだすためには、看護学院の今後のあり方を早急に検討し方向性を決定する必要がある。
	7-3 入学選考基準を明確化し、適正に運用されているか	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	入学選考の可否は入学選考基準により適正に審査されている。また受験生は大きく減少しているのと、合格者の入学辞退が多かったため、目標の入学者32名の確保ができなかった。	准看護学科生徒の高年齢化と通信制進学コースの躍進により、目標入学者数を確保するのが非常に困難な状況である。男子学生受け入れの検討をしていく必要がある。	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	
8 財務	8-1 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	予算及び事業計画は設置主体法人に報告・確認しており、計画に基づき適正に執行され、決算報告も適正に行っている。	特になし	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	予算・決算については適正に行われている。
	8-2 財務について会計監査が適正に行われているか	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	社会医療法人会計基準に基づき、公認会計士による監査を受けている。	特になし	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	財務について会計監査が適正に行われている。
9 法令 等 の 遵 守	9-1 法令や専修学校設置基準を遵守し、適正な学校運営を行っているか	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	専修学校設置基準を遵守し学校運営を行っている。	特になし	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	法令・設置基準は守られ、適正に運営されている。
	9-2 個人情報保護に対する対策を講じているか	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	実習に関する個人情報の遵守は、各実習前オリエンテーションで説明を行い、誓約書を記入、持参して実習に臨んでいる。個人情報を守れなかった場合の懲戒処分についても学則、実習ガイドンスに記載したものを説明している。	実習に関する個人情報については、大きな情報漏洩もなく、遵守できている。実習記録や個人情報遵守に関しては、現行のまま継続していく。学生同士のSNSでのトラブルについて、学則で規定を定めているが、学生の意識としては薄いため、年度初めに各学年に注意を呼びかける。	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	個人情報保護規定を定めている。

9 法令等 の 遵 守	9-3 自己評価の実施と 問題点の改善を 行っているか	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	自己評価については、学校の体制が 整い、2018年度の評価から始めること ができた。授業評価についても今年度 から各授業の評価を行っていくこと になり、進めている状況である。	自己点検・自己評価については、学校 全体で各科同時に行えるように体制 が整った。初めて行うものであり、気 付いていない点や、改めて知ることが あり、教員全員で自校の教育の共有、 見直しを行う必要があると考える。	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	自己評価の実施と問題点の改善 を行っている。
	9-4 自己点検結果を公 表しているか	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	ホームページ上に公開。	特になし	4 優れている ③ ほぼ適切 2 やや不適切 1 改善が必要	自己点検結果は公表されている。